

職業リハ学会通信

NO.151 2017年 9月発行

学会大会

日本職業リハビリテーション学会 第45回(栃木)

ご協力ありがとうございました

第45回栃木大会を終えて

～地域支援にみる拡大に方向づけられた支援の展開～

大会長 牧 裕夫 (作新学院大学)

8月25日(金曜日)・26日(土曜日)作新学院大学を会場として本大会が行われました。

大会直前の8月当初の申込数が100人に満たない状況に、大会スタッフ一同は顔面蒼白となりましたが、最終的には300人を超える参加者の中で大会を終えることができました。

全国から参集された皆様に感謝です。

従来大会では二日目に口述発表としていたところ、本大会では初日としました。法政大学の眞保智子先生のご提案によります。発表を踏まえて懇親会での本音なディスカッションの広がりを期待してのことです。二日目のワークショップでは、「就労定着支援」、「多様な専門性」、「医療領域から就労への移行」として従来の高次脳機能に止まらず癌患者などもテーマとして登場等、現在進行中、今後の展開に向けた内容の設定、さらにその上で必要な「雇用率制度」の在り方、またエビデンスの考え方等に広がっています。

大会テーマは“「共に成長」からの職リハ支援の進展”でしたが、前述した二日間で皆様が体験されたことそのものであったのではないのでしょうか。個々のフォーマルな発表、それに触発された個々の動機に導かれ、2・3人レベルの相互作用が幾つも発生し、ワークショップ、シンポジウム等の中・大グループでの体験との相互作用から集団、個々の「共に成長」という循環的な体験が進行していたのではないのでしょうか。

シンポジウムでは、日本障害者リハビリテーション協会の上野悦子先生から CBR 及びその今日的な展開としての CBID について具体例を含めて伺うことができ、那須フロンティアの増田美和子先生、大会実行委員長の野崎智仁先生それぞれから正に CBID の実践として地域で支援が進展する状況が具体的に呈示されました。上野先生が実践例として示された、地域資源がそれぞれ渦のように拡大し、あたかもマンダラのように示された資料、そこに今回のシンポジウム、今回の学会でのテーマ「共に成長」そのものを集約していたように思えます。指定討論者の朝日雅也職リハ学会会長から、個々の実践そのものが支援者の資源となり、そこには利用者と支援者「共に成長」が必然的に伴い、支援の循環的な拡大をもたらす根源的な機序としてご指摘いただけました。朝日会長の発言メモには実は沢山「共に成長」の文字が記載されていました。

会場の作新学院大学はアクセスがよいとはいえないところ、また周辺にコンビニ、飲食店もなく、驚かれた方も多かったと思います。10回を超える大会準備委員会、それぞれの仕事、学業がありながら精一杯の対応でした。大会運営につきまして様々行き届かぬところもあったかとも思いますがご容赦願いたいところです。ご容赦ついですが、自主シンポに対しまして、実施者から当該内容

のレポートを提出していただいております。大会ホームページに関連レポートを掲載した抄録を添付しましたので、是非ご参照、ご利用いただけますと幸いです。

来年度は北海道大会となります。小職も新人として4年間勤めた彼の地での大会を楽しみに、大会の成功を祈念して45回大会の報告とさせていただきます。

大会長 牧 裕夫（作新学院大学）



大会準備委員会会議の様子



大会会場入口



シンポジウム会場

第 45 回学会大会報告	1P
2017 年度会員総会報告	3P
委員会報告	13P
ブロック活動報告	13P
新入会員のお知らせ	14P
事務局からのお知らせ	14P